

## 人生 100 年時代のライフプラン

日本社会は、長寿化と少子化で人類史上経験のない高齢者大国の時代に突入しています。「LIFE SHIFT」(リンダ・グラットン、アンドリュー・スコット著)によると、寿命の長期化によって先進国の 2007 年生まれの 2 人に 1 人が 103 歳まで生きる「人生 100 年時代」が到来するとされています。多くの人が退職後 30 年以上の長い老後に備え、資産形成の必要性を感じています。一方「人生 100 年時代」を脅し文句に、一部の不動産業者や金融業者が長期の資産形成には向かない投資を勧めてくる懸念もあります。

人生 100 年時代を生きる我々全て、自分の人生の棚卸(ライフプラン作成)の上、正しくリスクを分析、自分のライフステージにあった資産形成とマネープランを計画しなければなりません。

老後資金が 2,000 万円不足する、と言って話題になった金融庁の報告書(高齢社会における資産形成・管理)に沿って、各ライフステージを年代別に分析すると、大まかに3つに分類できます。

### I. 20代～50代の現役期(資産形成期)

この世代は、バリバリ働く資産形成の最も重要であるとともに、結婚、子育て、住宅購入、親の介護と、最も資金が要る時期でもあります。早いうちからの資産形成をするため、iDeCo、積立NISAなど計画的に資産形成に努める一方、金融業者の誘惑から自己防御する金融リテラシーの向上も大事です。

### II. 60代～70代のリタイヤ期前後(資産運用・取崩し期)

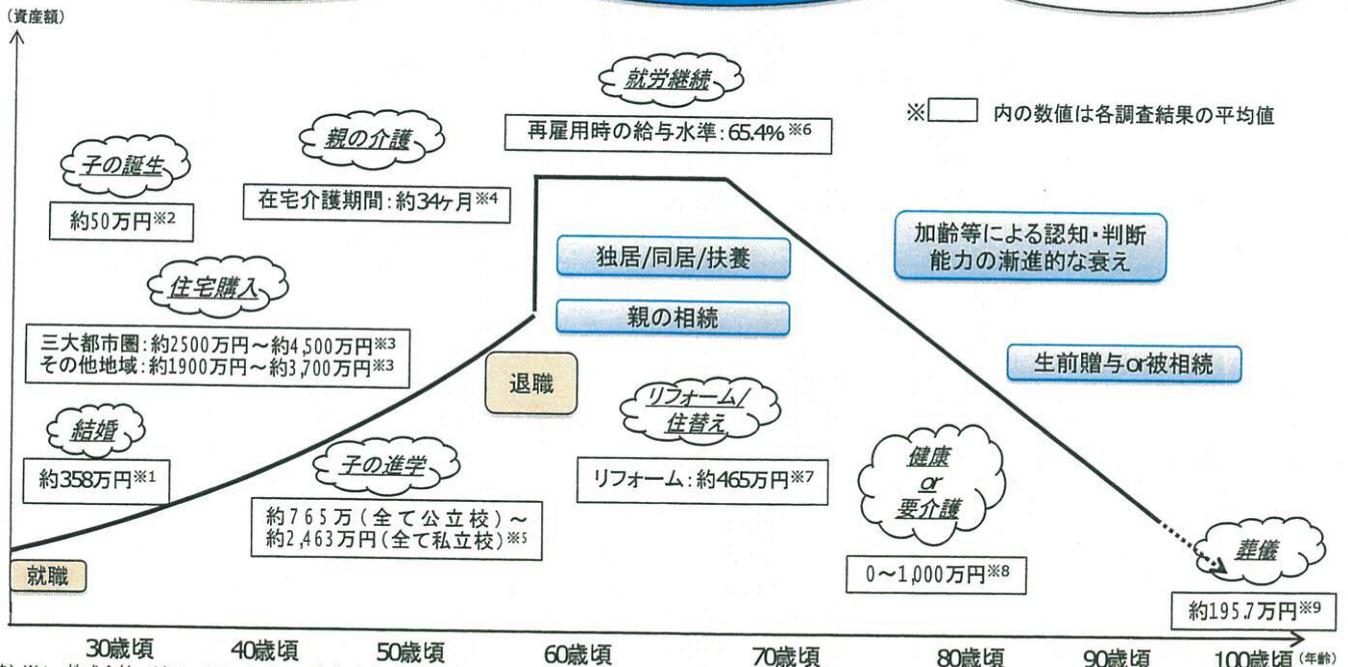
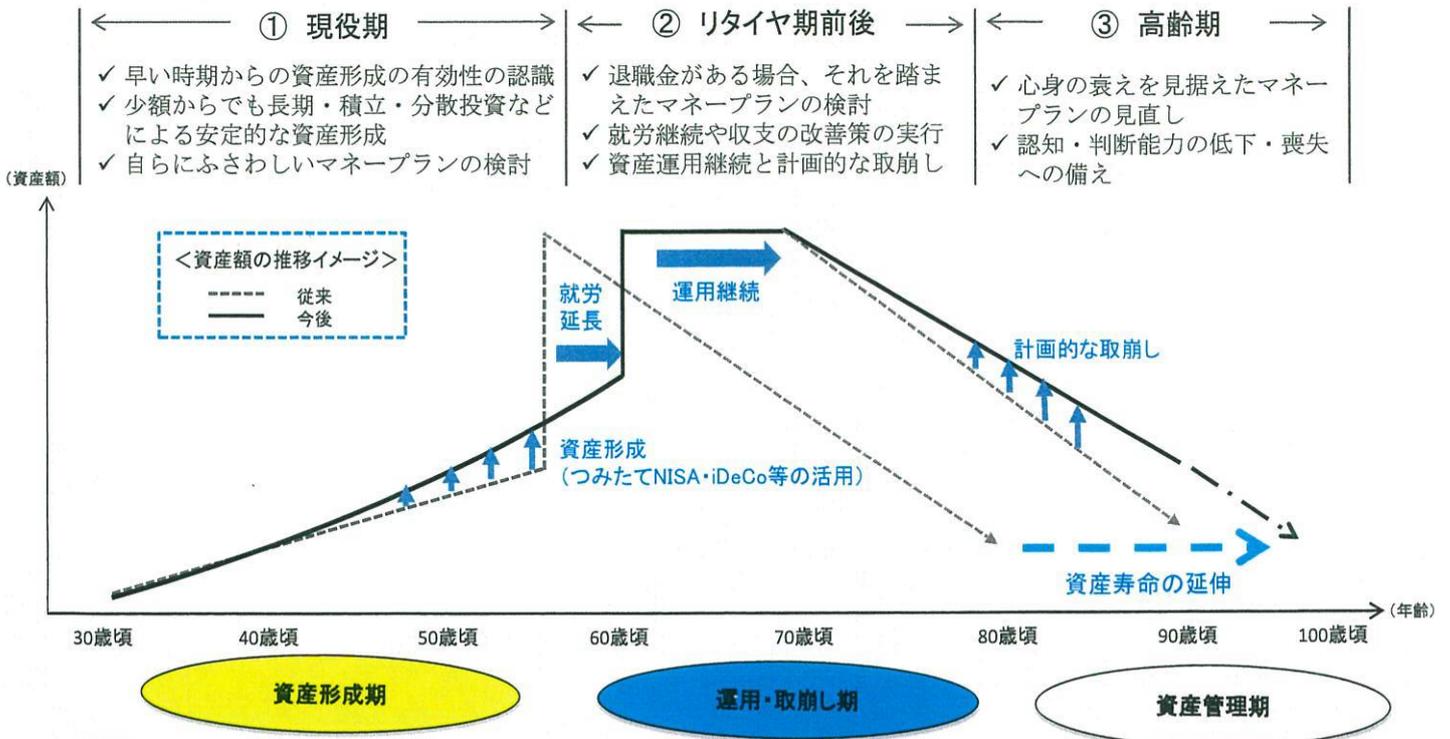
退職金の運用、資産形成は金融資産の運用のみではなく、不動産その他の資産の分散運用、将来の資産取崩しを考慮したライフプランを作成します。資産形成および年金収入の不足が予想される場合は、住み替え、生活の見直し、就労延長のアドバイスも必要となります。また親世代の介護や相続問題も重要な課題となってきます。

### III. 70代以降の高齢期(資産管理期)

人生 100 年時代と言って一番心配されるのは、この退職後の長い老後の問題です。資産を継続的に運用しながら、計画的に取り崩し、できるだけ積み上げた資産寿命を延ばすことを目指します。この世代の重要な課題は、次世代への相続(事業継承)もありますが、自分自身の健康、認知・判断能力の低下に備えて家族信託、成年後見人制度等の利用の検討があります。まず遺言書、エンディングノートの作成から始めるとよいでしょう。

「老後 2,000 万円の生活費が不足する」と一部文言が独り歩きし反発を招いた金融庁の報告書ですが、中身は公的年金を補う自助努力が必要で、長期・積立・分散投資が有効だ、と極めて当たり前のことを言っています。報道に躍らされることなく、まずできるだけ自分のライフステージごとに自分の生活を見直し、自分の実態に沿ったライフプランを作成し直しましょう。ライフプランとはお金にかかわる人生の諸問題に対応する計画なのでありますから。

## ライフステージ別の留意点



(出典) ※1 株式会社 リクルートマーケティングパートナーズ「ゼクシィ結婚トレンド調査2018」  
 ※2 公益社団法人 国民健康保険中央会「正常分娩分の平均的な出産費用について(平成28年度)」  
 ※3 住宅金融支援機構「2017年度フラット35利用者調査」より土地付注文住宅、注文住宅、建売住宅、マンション、中古戸建及び中古マンションの取得費(建築費・土地取得費含む)の平均値  
 ※4 厚生労働省「今後の仕事と家庭の両立支援に関する研究会報告」参考資料  
 ※5 文部科学省「平成28年度子どもの学習費調査結果」及び独立行政法人「平成28年度学生生活調査報告書」より金融庁作成  
 ※6 厚生労働省「平成29年職種別民間給与実態調査」  
 ※7 国土交通省「平成25年住生活総合調査結果」  
 ※8 生命保険文化センター「平成27年度生命保険に関する全国実態調査」  
 初期費用80万円+(月額7.9万円×12月×10年)=1,028万円  
 ※9 一般財団法人 日本消費者協会「葬儀についてのアンケート調査」